

保健活動リレーエッセイ

“まちの健康支えます！”

宇土市 保健師 伊藤順子

住民の幸せを考えることで、自分も一緒に幸せになれる

この「保健活動リレーエッセイ」の執筆依頼を受けたとき、「国保くまもと」が Web 版になっていたとは知らずに「原稿用紙 2 枚程度ですよな？」と言ってしまったことを、冷静になった今、非常に悔やんでいるところです。それでも、今の私の思いなどを皆さんにお伝えできればと、パソコンに向かっていきます。

ということで、それまでの子育て支援課勤務から久しぶりに保健センターに異動になり 1 年が過ぎたところです。

約 25 年前、基本健診時代の真ただ中を生きていた私は、健康教育と母子保健事業に明け暮れていました。あちこちの婦人会・老人会に出向いて、食事のことや運動のことと、今思えば「よくあんな話を聞いてもらえたなあ」と感謝するしかありません。時には、訪問車でうろうろしていると、高齢者の方が乗った自転車に幅寄せされて「今から、どこ（どこに）行くとな？」と声を掛けられ、同乗していた同僚からは「順子ちゃんはよく小さい子どもとお年寄りに声掛けられるとね」と笑われていました（その頃は独身でした）。

昨年、重症化予防事業で久しぶりに家庭訪問し、病院受診を勧める際に生活習慣の聞き取りをしながら、「実は私もメタボ予備群でした」と白状してしまいました。「こんな生活をしていたらこうなって……」と話しているうちに、二人で「そうそう、あるある」となり、最後には「何かあったら保健センターに行けばよかね」と言ってくださり、久々に保健師活動のだいご味を味わうことができました。

私たちは、“住民が幸せになるために”と勉強したり試行錯誤したりしています。そして、時々自分のことを振り返ることで、住民と一緒に幸せになっていける職業なんだなあと思えるようになってきました。

特定健診受診率の低迷や慢性腎不全患者の増加など、大きな課題を幾つも抱えている宇土市ですが、どうにかしてこの課題を乗り越えなければと、知恵を張り巡らしているところです。これからは、後輩たちがより多くのだいご味を味わえるように、体制を整えていきたいと考えております。



健康づくり課（保健センター）のスタッフ。筆者は前列中央

次号執筆者は未定です（5月9日現在）。